

# 県協会審判講習会 資料

2024年11月10日

## <主審・副審・線審の役割とアクションについて>

1. 基本的に副審・線審は主審の目の代わりであり、「アウト」のジャッジは手を挙げて「アウト」であることを主審に伝える。
2. 線審はベースラインのジャッジだけでなくサイドラインのジャッジも行う。
3. インプレー中の「イン」ジャッジは行わないこと。(間違った情報の伝達になるため)
4. 副審はボールの見える位置に常に移動しながら審判を行う。
5. 副審が持つ得点板は、主審だけでなく選手も確認できるよう左右に得点板を動かす。
6. 副審・線審がコールできる失点もあるが(ルールブック 21 ページ 付表① 失点コーラー覧表参照)、「アウト」に関するものは、サービスも含めて、手を挙げるアクションにより、主審に伝える。(声を出さない)
7. 審判は、試合開始前に各審判の判定責任ラインの確認を行う。
8. 主審・副審または線審のジャッジの意見が分かれた場合や、主審から見えなくて判断が出来ない場合に、主審は副審・線審を呼び協議の後に主審が判定を決定する。
9. 主審の判定後にも関わらずプレーを再開しない(クレームが続く場合)は、審判は本部に連絡し、本部が以下の判断を行います。  
本部からの説明後もプレーが再開されない場合は、遅延行為とみなします。  
遅延行為とみなした場合は、その程度により失点(インターフェア)から最悪の場合は退場を命じる場合があります。
10. 試合前のラインアップは、ネット前に選手を試合順に整列させる。

## <インターフェアについて>

1. 威嚇(威力、言威)、妨害(挑発行為、挑発発言、遅延行為、虚偽発言、暴力行為)などは、あくまで軽度のもので、法律に違反するような行為となった場合はインターフェアではなく退場となり、場合によっては通報することがあります。
2. ワンバウンドしたボールを選手が「アウト」と判断し、その後「アウト」と言って打ち返した場合に、主審が「アウト」と判定した場合は(インプレーは「アウト」になった時点で終了しているため)「アウト」になります。  
但し主審が「イン」と判定した場合は、(インプレーが継続しているため)インターフェアになります。
3. 打つ時に声を出すのは大丈夫ですが、その時に暴言や相手を惑わす発言(実際にあったのは、落とすよと言いながらスマッシュを打ったり、上げるよと言いながらドライブを打ったり)はインターフェアになります。

<講習会でのQ&A>

Q1)近年の大会において、隣のコートに入ってプレーは失点となるが、入られたコートはどのような判定を行えばいいか？

A1)主審の判断により、危険またはプレーに支障があると判断した場合は、即刻プレーの中断の宣言を行い、安全が確保できてからノーカウントとして、再度その得点からプレーを再開してください。

Q2)上記の場合に、主審がプレーに支障がないと判断した時の選手からのクレームに対してどうすればいいのか？

A2)基本的にボールが入ってきた時と同じで、主審の判定を告げてください。

Q3)選手への指示や審判への抗議について、誰が代表者か判らない、または代表者以外の人でも指示や抗議をしている、監督バッジとか付けられないか？

A3)これに関しては、県の決勝のビデオでも複数の方からの指示が確認できています、今後県協会として検討を行っていきます。

Q4)サービスの「アウト」の時、コールは「フォルト」でいいのか「アウト」なのか？

A4)県協会では今後検討していきます。